令和元年度 学 校 評 価 報 告

草加市立新田中学校

(令和 2年 2月10日作成)

1 学校教育目標	
・豊かな心と学ぶ意欲をもち 広い世界で たくましく生きる生徒	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え学ぶ意欲の向上を目指す。 ☆自ら学び【基礎学力】 基礎・基本の習得と活用 主体的・対話的で深い学びの追究 ・豊かな心、美しい心の育成を目指す。 ☆心豊かに【規律ある生活】 規律ある生活の徹底 (礼を正す、場を清める、時を守る) 特別活動の充実 (行事をとおして子どもを育てる) ・心身が健康で、たくましい生徒の育成を目指す。 ☆たくましく【健康・体力】 健康教育、安全教育、防災教育の推進 生徒指導・教育相談の充実 ・中学校区の幼保小中の連携を図る。 ☆「学び」と「心」【子ども教育連携推進】 「幼保小中を一貫した教育」の研究 ペアスクールとしての「創立40周年記念事業」の推進 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員が、学校教育目標の具現化をめざし、基礎基本の徹底、学習規律の確立、生活規律の徹底に取り組み、学力向上に向けて進めていくことができた。 ○小中一貫教育を、乗り入れ授業や行事の交流を中心に進めることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新学習指導要領実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」について、さらに研修を深めるとともに、道徳の教科化に向けて、積極的に研修を深める必要がある。 ●不登校の生徒を少しでも解消できるように、保護者や関係機関と連携を密にし、改善を図る必要がある。 ●中学校区内の幼保小中の連携を密に図り、小学校とは授業の相互の交流を図り、安心して中学校へ入学できる教育環境づくりに努める必要がある。

4 評価表 ※評価基準【A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である】				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校経営方針に沿って、各分掌が中心となって、業務を遂行できた。 ●全教職員が組織の中で、共通理解、共通行動の視点に立って、業務を遂行する必要がある。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○研究発表会や各種研修会への参加を通して、研鑽を深めることができた。 ●全教職員がICT機器を積極的に利用するよう、さらに研修を深める必要がある。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○安全主任を中心に、緊急対応に関するマニュアルを再確認し、生徒の安全を第一に考えた計画を実施することができた。 ○アレルギー対応は、養護教諭や栄養教諭を中心に、効率よく進めることができた。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の情報管理やセキュリティに関する意識を高めることができた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会、 学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だよりやHP等の活用をして、生徒の様子をきめ細やかに発信をすることができた。 ○引き取り訓練や避難所運営訓練等で、保護者や地域と連携した取組ができた。また、地域の行事に積極的に参加した。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じた教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○合同研修会や定期的で開催する中学校区連絡会で、活発な情報交換をすることができた。 ●小中の相互の授業参観を定期的に行い、児童生徒の様子をつかむとともに、教師個々の授業力向上に努める必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じた教育課程の編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<p>○可能な限り授業時数の確保に努め、効率よく教育活動を進めた。</p> <p>●各教科や各領域との連携を密にしていく必要がある。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<p>○ICT機器を利用した授業が増え、生徒の興味・関心を引き出す授業改善が見られた。</p> <p>●「主体的・対話的で深い学び」について、さらに研修を深めていく必要がある。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<p>○ローテーション道徳の導入により、学年の職員全員が授業を行うことができた。</p> <p>●クラスの実態、教材の実施時期、評価の内容等についての反省をしっかりと行い、次年度の指導に生かしていく必要がある。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	○各学年リーダーの育成に力を入れ、学校行事や生徒会活動を通して、意欲的に取り組む生徒が増えた。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	○各学年とも計画に基づき、生徒の興味・関心をもとに、主体的な活動を通して、指導することができた。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○基本的な生活習慣が身に付き、落ち着いた行動を取れる生徒が多く、組織的な取組の効果が表れている。</p> <p>○不登校の生徒に対して、家庭やさわやか相談員等、連携を密にして指導することができた。</p>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	A	○各学年とも年間指導計画に基づき、計画的に取り組むことができた。また、職場体験学習や上級学校訪問では、生徒がそれぞれ将来への道筋を考えることができた。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<p>○通常学級との交流が十分にできた。また、教職員向けの特別支援教育の研修も実施できた。</p> <p>●通常学級における、支援を要する生徒への指導方法を全体で共有していく必要がある。</p>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	○司書教諭、学校司書の効果的な図書室運営により、来室者が増え、貸出冊数が増加した。また、新聞コーナーを継続し、読解力向上の一端を担っている。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<p>○小学校高学年と中学1年合同の「ケータイ・スマホ教室」を実施し、携帯電話・スマートフォンの利用について考えた。</p> <p>●ICT機器も新しい機材が導入されたため、使い方についてさらに研修を深めていく必要がある。</p>
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	○各学年とも年間指導計画に基づき計画的に取り組むことができた。また、積極的に作文や標語等のコンクールに応募することができた。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①小中を一貫した教育の推進	・中学校区の小学校との円滑な接続 ・ペアスクールとしての交流活動の充実	B	○中学校区の小学校と連携を密にし、円滑な接続を試みることにより、中1ギャップの解消に努めることができた。また、行事や作品など、充実した交流を深めることができた ●小中の相互の授業参観を定期的に行い、児童生徒の様子をつかむとともに、教師個々の授業力向上に努める必要がある。
	②豊かな心、美しい心の育成	・規律ある生活の徹底 ・特別活動の充実	A	○生徒会活動による「スマイルサポーター活動」を通して、生徒が主体となっていじめの根絶に取り組んだ。 ○「礼を正す」「時を守る」など、規律ある生活を徹底することができた。
	③心身が健康でたくましい生徒の育成	・規範意識の醸成 ・健康教育、安全教育の充実	A	○保健体育や部活動等の運動をとおして、体力が向上した。また、体育祭への積極的な取組には目を見張るものがあった。 ○引き取り訓練や避難所運営訓練など、地域や小学校と連携して実施することができた。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・自ら学び【基礎学力】
県学力・学習状況調査からも、自ら考え、学ぶ意識の向上が見られた。
- ・心豊かに【規律ある生活】
礼を正す、場を清める、時を守るなどの基本的な事項については、ほとんどの生徒がしっかり取り組もうと意識している。集会等にも表れている。
- ・たくましく【健康・体力】
生徒会保健委員会を中心とした朝食の大切さの取組や毎日の健康観察、日常の歯磨きなど活発に行われた。中学校区合同引き渡し訓練、地域や小学校と連携した避難所運営防災訓練等、小学校や地域住民と連携を図った防災の取組を行うことができた。
- ・「学び」と「心」【子ども教育連携推進】
中学校区における連携の取組をさらに充実させながら、交流活動等を通して、小中の円滑な接続が図られるよう推進していく。
- ・学校関係者評価
学校全体に関すること、行事に対する取組等、多くの面で高い評価をいただいた。課題として、不登校生徒の対策、学力の低い生徒への対応、新学習指導要領への対応、感染症対策等の御指摘を受けた。今後も、全教職員で家庭・地域と連携を図りながら、課題解決のために、計画的・組織的に対応し、取り組んでいく。

6 次年度の改善策

- ・自ら学び【基礎学力】
新学習指導要領実施に向けた、「主体的・対話的で深い学び」について、さらに研修を深める。
- ・心豊かに【規律ある生活】
行事の精選と見直しを含め、行事をとおして豊かな心を育むとともに、リーダーの育成にも力を入れていく。
- ・たくましく【健康・体力】
不登校の生徒が少しでも減るよう、学校全体の課題として考え、保護者や関係機関との連携を密にし、教育相談の体制を充実させ、取り組んでいく。
- ・「学び」と「心」【子ども教育連携推進】
中学校区内の幼保小中の連携を密に図り、小学校との授業の相互交流を強化し、連携をさらに深め、地域の小学校から中学校へ安心して学べる教育環境づくりに努める。